

令和元年度 全国学力・学習状況調査を受けて

帯広市立豊成小学校長 高原 茂雄

1. 実施日 平成31年 4月18日

2. 児童の実態 (平成31年度全国学力・学習状況調査結果より)

◇国語の概要

- すべての領域で、全国の平均正答率を大幅に上回っています。
- 特に、数年にわたり唯一全国と同程度、もしくは若干下回り課題となっていた「書くこと領域」に関しては、今年度大きく上回ることができました。これは、道徳を校内研究の主軸に据え、道徳のみならず、各教科で課題とまとめを常に意識した授業改善に継続して努めてきた成果と考えられます。
- 日常の授業改善はもとより、読書活動の充実、朝読書、朝学習、宿題、日常の繰り返し学習、丁寧な個への指導の充実の成果が表れています。
- 過去の本校の国語科の研究を職員全体で振り返り、手法を学び直したことも大きい。
- ◆唯一全国を下回った設問は、漢字の問題「関心」であり、同音異義語についてその都度、学習を進めていく必要があります。

◇算数の概要

- すべての領域で、全国平均正答率を大幅に上回っています。
- 指導方法工夫改善加配による個への丁寧な指導の充実を図ったTT、習熟度別学習の成果が表れていると考えられます。
- すべての設問に対して無回答率が低く、自らの考えをもつことができています。
- 多くの職員が実物投影機他ICT機器を積極的に活用し、目で見て理解しやすい工夫を行っている成果が表れています。
- ◆唯一全国を若干下回った設問は、「目的に適した、伴って変わる2つの数量を見出すことができる」でした。問題から得られる情報を整理し取舍選択する力を付けていく必要があります。

◇学習状況調査～児童質問紙より

【全国の平均値と比較し、顕著に高かった項目】

- 「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をする」
- 「将来の夢や目標をもっている」 ○「読書時間が多い」 ○「新聞を読む」
- 「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」
- 「学校のきまりを守っている」 ○「いじめはどんなことがあっても許されない」

【改善を図っていかなければならない項目(抜粋)】

- ◆「自分にはよいところがある」と答えた児童が全国より少ない。
- ◆「先生はよいところをほめてくれる」と答えた児童が全国より少ない。
- ◆「1日あたりの学習時間」で2時間以上と答える児童が全国より少ない。

- (1) 全国学力・学習状況調査の結果から、国語科においては校内研修を窓口として授業改善に努めてきた成果が表れ、前年度の数値目標を達成することができた。今後も基礎・基本の定着に向けた指導を引き続き行うとともに、それらをもとにした活用力を身に付けるべく、絶えず授業改善に取り組み、確かな学力の向上を目指していく。
- (2) 地域ボランティアを中心とした協力体制を確立することで、子どもたちの読書時間が増える結果となった。また、子どもたちの自尊感情が低いという結果が出たことについては、褒めて伸ばすという観点も充実させていきたい。

3. 目標(「全国学力・学習状況調査」の結果を受けて)

- (1) 学習意欲を高め、社会で生きる実践的な力を身に付けるために、地域(文教ゾーン)と連携しながら身近な課題に基づいた体験的・問題解決的な学習を重視した教科指導やキャリア教育の充実に引き続き努める。
- (2) 基礎的・基本的内容を確実に定着させるため、習熟度別少人数指導等、指導方法の改善を図り、目標・指導・評価の一体化を重視した授業改善を行う。
 - ☆数値目標①・・・全国学力・学習状況調査の全ての領域において、全国平均正答率を**3%上回る**結果を残す。
 - ☆数値目標②・・・全国の下位25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合を全国平均より**5%少なく**する。
- (3) 家庭と連携し、家庭学習習慣の確立を図る。
 - ☆数値目標③・・・4～6学年において、学校の場合以外に1日あたり(学年×10+10)分、勉強していると回答する児童の割合を**9割以上**にする。

4. 改善方策

- (1) 今回及び今後の各種調査結果の分析と課題と成果の共有化を常に図り指導に生かすとともに、解き直しの機会を設け、確実に全員が理解することを目指す。同一問題再テストを行い理解の定着を目指す。
 - ・全国学力・学習状況調査、全学年CRT、全学年チャレンジテスト
 - ・WEBシステムフォロー・サポート問題 等
- (2) 全校共通の取組を推進し、全体の底上げを目指す。
 - ・教室環境、学習規律の徹底、校内研究とリンクした学習過程、ノート指導(板書とノートの一体化)、課題とまとめを明示した一単位時間の授業づくり、授業の終末の定着時間の重視、生徒指導の充実 等
- (3) 校内研究と公開研究会での検証を生かした授業改善に努める。
 - ・主体的に学び、共に伸びる子どもの育成
 - ・心を耕す道德教育の充実
 - ・特別支援教育の手法を取り入れた効果的な指導の充実
- (4) 習熟度別少人数指導を重視した授業づくりを行う。
 - ・低学年の定着漏れの回避を重視する。
 - ・すべての児童にわかる喜び、できた喜びを味わわせる。
 - ・習熟度別少人数指導をより効果的に行うための指導方法の研究を進める。
- (5) 朝学習・朝読書の効果的な取組を推進する。
(基礎・基本の徹底、計画的・継続的な実践、保護者との連携)
- (6) 家庭学習の手引き、生活リズムチェックシートを配付し、学習習慣や望ましい生活習慣を確立するための家庭への啓発の継続化を図る。
 - ・家庭との情報の「交信」を意識し取組を進める。
 - ・家庭との連携をより深めていくための手立てについて工夫する。
- (7) 放課後や長期休業日等における補充学習を実施する。(放課後居場所づくり事業との連携も視野に入れながら)